下部消化管外科プログラム

【概要】

下部消化管は大腸癌を中心とした基本的な外科医の姿勢、基本的な手技から高度技術、術後管理を指導します。診療の中には、高度の専門知識、技術が必要とされる厚生労働省により定められた施設認定基準の多くの手術が含まれています。

研修の骨格：臨床研修制度の主旨に則り、まずは臨床医として習得しておくべき一般外科学における基本的診療の知識、技術を下記のプログラムに沿って経験し、修得、発展させます。将来外科専門医を目指す者には外科研修のプログラムの第１章としての位置付けることが可能であり、将来他科を専攻する者には医師として習得しておくべき外科的診断法や手技を獲得する唯一の機会として企画されています。

当院及び関連する修練施設は、日本外科学会・日本消化器外科学会の認定施設であり、外科学会専門医取得をはじめ、外科学会指導医・消化器外科学会専門医・消化器外科学会指導医・内視鏡外科技術認定医などの専門分野のエキスパート養成を目指します。

【レジデントＡ（卒後３年目）の他部署研修について】

総合診療能力のスキルアップのため、炎症性腸疾患外科、上部消化管外科、泌尿器科、救命救急センターのいずれかで、希望により３ヶ月間研修を行うことができます。

【カンファレンス、症例検討会等】

術前・術後検討会、重症症例検討会、抄読会、回診を定期的に行っています。又、内科、放射線科との合同カンファレンスも定期的に行っています。

【学会発表・論文投稿へのサポート】

日本外科学会専門医取得には、指定の学術集会での発表または学術雑誌への投稿が義務付けられています。グループで適切な症例を選択し、学会発表から論文投稿までの一連の作業をサポートします。

【修練修了・専門医取得後について】

本人の意思を尊重し、①さらなる専門領域研鑽のために大学で経験を積む、②関連施設にてさらなる臨床経験を積む、③大学院に進学し医学博士号取得を目指すなど、幾つかの選択肢があり、それぞれの順序も選択可能です。

【大学院進学及び留学について】

大学院での研究は外科を中心として基礎教室と連携して研究を行っており、必要に応じて国内留学する場合もあります。

学位取得後、希望者には海外留学も可能です。

【指導医】

指導責任者および連絡先

主任教授：冨田　尚裕（日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本がん治療医認定機構暫定指導医、日本大腸肛門病学会専門医・指導医）

TEL：0798-45-6370　　FAX：0798-45-6373 E-mail:jichuan@hyo-med.ac.jp(秘書：吉川)

【研修統括者】

助教：坂東　俊宏